

# A Retrospective Study of 290 Patients with Resectable Benign and Malignant Gastric Neoplasms to Compare Postoperative Outcomes of Endoscopic Resection with and without the Internal Traction Method Using a Spring-and-Loop with Clip (S-O Clip)

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-11-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中津, 洋一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003751">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003751</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2556 号

A Retrospective Study of 290 Patients with Resectable Benign and Malignant Gastric Neoplasms to Compare Postoperative Outcomes of Endoscopic Resection with and without the Internal Traction Method Using a Spring-and-Loop with Clip (S-0 Clip)

早期胃癌 ESD に対する“S-0 クリップ”を用いたトラクション法の有用性について

中津 洋一（なかつ よういち）

博士（医学）

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、早期胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）において、トラクションデバイスである S-0 クリップの有用性を評価した。

**【新規性、創造性】** S-0 クリップは大腸 ESD に対して開発されて本邦で市販されて広く使用されている。早期胃腫瘍の ESD に対して S-0 クリップの有用性を示した報告は少ない。本論文では、290 例というまとまった症例数を検討し、S-0 クリップを使用することで完全切除率が改善し、内視鏡経験数の少ない内視鏡医が S-0 クリップを使用することで治療時間を有意に短縮させたことを初めて示した。

**【方法・研究倫理】** 2017 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに当科で ESD を受けた早期胃腫瘍の 347 名のデータを解析し、除外基準から、290 名を選択した。対照群（n=149；腺腫、4；癌、137）は 2017 年 4 月から 2020 年 3 月の期間に S-0 クリップを使用せず ESD を施行した群と定義し、S-0 群（n=141；腺腫、1；癌、148）は、2020 年 4 月から 2023 年 3 月の期間に S-0 クリップを使用して ESD を使用した群と定義した。主要評価項目は、手技時間、一括切除率、および完全切除率として、副次評価項目は、患者背景、出血や穿孔などの合併症発生率、病理学的情報とした。

**【学術的意義】** ESD は現在、粘膜内悪性腫瘍に対して標準治療として認知されているが、技術的に未だ困難であり、治療の普及やトレーニング法に地域間格差、施設間格差があると言われている。その解決策の一つとして、トラクションデバイスが開発されてきた。本研究では、トラクションデバイスである S-0 クリップを使用することにより、治療時間と完全切除率を有意に改善し、線維化例や体上部症例などの治療困難例に対しても有用性を示すことが可能であり、治療経験の少ない内視鏡医でも治療時間を短縮することを示した。

**【考察・今後の発展】** S-0 クリップを計画的に使用した早期胃腫瘍に対する ESD は、手技の過程を簡略化することにより、あらゆるレベルの内視鏡医に有用である可能性がある。本症例のようなトラクションデバイスを使用した治療戦略が広まれば、従来法よりも ESD の習得が容易になり、結果的に多くの患者が治療の恩恵を受ける可能性がある。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。